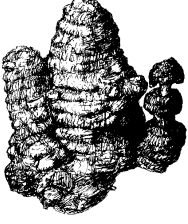


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
せー21	せんきゅう 川芎 (芎藭)	辛・温 肝・胆・心包	3~9g、煎服。
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
 <p>マルバトウキ属植物の根茎</p>		<p>中医生薬解説</p> <p>活血行気 気血瘀滞による月経不順、無月経、月経痛、難産、胎盤残留などに、当帰・白芍・熟地黄などと用いる「四物湯」。 肝鬱気滞、血瘀の胸脇痛には、柴胡・香附子・白芍などと用いる「柴胡疏肝散」。 瘀血痺阻心脈による狭心痛には、紅花・丹参・赤芍などと用いる「冠心II号方」。 火毒壅盛の気滞血瘀による癰疽腫痛（皮膚化膿症など）には、当帰・穿山甲・皂角刺などと用いる「透膿散」。 打撲外傷による内出血の腫脹、疼痛には、当帰尾・桃仁・没薬などと用いる「治打撲一方」「折衝飲」。</p> <p>祛風止痛 風寒の頭痛に、白芷・細辛・防風などと用いる「川芎茶調散」。 風熱の頭痛に、菊花・白僵蚕・石膏などと用いる「川芎散」。 風湿の頭痛に、羌活・独活・防風などと用いる「羌活勝湿湯」。 血虚の頭痛に、養血の当帰・白芍・熟地黄や散風の蔓荊子・菊花などと用いる「加味四物湯」。 風寒湿痺の関節痛に、防風・細辛・独活・杜仲・續断などと用いる「三痺湯」「独活寄生湯」。</p> <p>使用上の注意 辛温昇散であり、過量に用いると真気を走泄させる弊害があるので、陰虚気弱で勞熱多汗を呈するときには禁忌であり、気逆嘔吐、肝陽頭痛、月経過多などには用いるべきでない。</p>	
		<p>中医以外の生薬解説</p>	
<p>神農本草経</p>		<p>味辛温、中風脳に入り頭痛するのや、寒痺にて筋の攣り緩急あるのや、金瘡や、婦人血閉して子の無きのやなどを主どる。</p>	
<p>新古方薬囊</p>		<p>味辛温、氣のめぐりを良くし、のぼせを下げ頭を軽くし、腹痛を治し、月経不順を調へ又は下血を止どめ或は胎兒を安んず、芎藭は當帰と合用せられ諸種の婦人病、昔時の所謂血の道に應用せらる、此れ等は皆氣の滞りを散じ、血行を順にさせる為と思われる。</p>	